

(1) 教育活動の取組内容	取組の結果〔昨年度数値〕
<p>1 学校経営・組織体制</p> <p>① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。</p> <p>② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。</p> <p>③ 学校評価や授業評価などを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。 【学校評価：協議員の評価 100% [60.0%]】 【学校評価：回収率(保護者)85% [83.5%]】</p> <p>④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：入学満足度(生徒)80% [77%]】</p> <p>⑤ 再定義されたスクール・ミッションと本校の入口から出口までの教育活動の指針として策定したスクール・ポリシーに基づき、特色・魅力ある教育を実践する。</p> <p>⑥ 学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施する。 【契約集約率 60% [53.2%]】</p> <p>⑦ 年3回の服務事故防止研修や業務点検等を行うことにより、個人情報管理や体罰等の防止対策など、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。また、校内における服務の厳正を図り、服務事故の根絶を目指す。</p> <p>⑧ 「進学指導特別推進校」として、質の高い授業を創造するとともに、高い進路志望を実現する。また、指定の最終年度を迎え、継続指定を目指し、将来構想委員会を設置し対応する。</p> <p>⑨ 「東京都国際交流リーディング校」として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流等を推進する。また、「学校2020レガシー」として、東京2020大会以降も継続的に豊かな国際感覚を育成するとともに日本人としての自覚と誇りを醸成する。</p> <p>⑩ 「理数研究校」として、企業や大学等と連携して理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げる。</p> <p>⑪ 会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに資料の事前配布やICTの効率的な活用に努める。</p>	<p>1 学校経営・組織体制 【B】</p> <p>学校経営計画に基づき、組織的な取組を行ってきた。目標達成に向けた各分掌等の現状と課題について、学校運営連絡協議会などで年3回報告した。</p> <p>学校評価における「入学満足度」「学校生活の充実度」「施設設備の整備」の評価は、生徒・保護者ともに高く、目標水準を達成した。「町高生としての誇り」「教育目標の伝達」の評価は、目標水準に少し届かなかった。</p> <p>アンケート回答率は、生徒はClassiのみとしたところ74.8% [97.1%]と減少したが、自由意見を多く集めることができた。保護者は保護者会で周知し、Classiと紙を併用することで71.9% [83.5%]となった。ともに、多くの自由意見が得られた。</p> <p>働き方改革の取組に関して、「国や都の取組成果」の評価は低く、「在校時間縮減の取組」の評価は、倍増したが、十分とはいえない。</p> <p>学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施した。契約集約率は目標に届いていない。</p> <p>教員の4名、経営企画室の1名欠員の状況にあり、教職員一人の負担はかなり大きくなっている。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった(そう思う・多少そう思う)」という評価 60%</p> <p>イ 学校評価の肯定的評価の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学満足度」は、生徒 87.2% [77.3%]、保護者 89.5% [89.5%]、教員 91.8% [-%] ・「学校生活の充実度」は、生徒 87.2% [-%]、保護者 88.4 [-%]、教員 89.8% [-%] ・「町高生としての誇り」は、生徒 69.9% [-%]、保護者 83.0% [-%]、教員 87.8% [-%] ・「教育目標の伝達」は、生徒 70.6% [65.1%]、保護者 73.5% [-%]、教員 81.9% [70.9%]、来校者 91.6% [-%] ・「施設設備の整備」は、生徒 91.0% [-%]、保護者 83.9% [6.3%] [-%]、教員 63.3% [-%]、来校者 95.5% [-%] ・「国や都の取組成果」は、保護者 24.1% [6.9%] [-%]、教員 22.4% [-%] ・「在校時間縮減の取組」は、保護者 48.3% [20.7%] [-%]、教員 46.9% [20.0%] <p>ウ 1か月当たりの超勤 45時間超 18.5人(1月時点)</p> <p>エ 契約集約率 42.8% [53.2%]</p>
<p>2 学習指導</p> <p>① 一方通行で単調な講義中心・板書中心の一斉授業から、ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業への転換を</p>	<p>2 学習指導 【B】</p> <p>生徒による授業アンケートを年間2回(昨年度は外部機関が1学期に行う授業評価1回のみ実施)、すべての生徒を対象に全科目で実施した。授業アンケートでは一定の肯定的評価を得た。自由意見の回答</p>

図る。

【学校評価：協働的な学習(生徒)80% [67.4%]】

【学校評価：ICT活用授業(生徒)80% [80.2%]】

- ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。また、課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。さらに、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。

【自主学習時間の取組】

	平日	休日
1年生	2時間 35% [31%]	4時間 20% [14%]
2年生	3時間 35% [18%]	5時間 20% [12%]
3年生	5時間 60% [36%]	6時間 80% [72%]

- ③ 全教職員(年2回程度)が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。

【学校評価：自習棟の開放(生徒)80% [82.5%]】

- ④ CAN-DO リストを活用した指導と評価に取り組むとともに、外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、指導方法を改善する。また、全校生徒の60%以上に、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。
- ⑤ 教養教育を重視し、受験科目だけではなく、全教科・科目を満遍なく学習させる。
- ⑥ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。
- ⑦ 日々の教育活動において、全教員が既にアカウントを配布している統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。
- ⑧ 多面的・多角的な評価に取り組み、ルーブリックに基づく、観点別学習評価を実践する。

【学校評価：評価基準の明示(生徒)80% [67.6%]】

- ⑨ 外部機関が行う生徒による授業評価(年2回)の結果等に基づき、授業改善に取り組む。
- ⑩ 教員の相互授業参観(年3回以上)や他校の授業見学等などにより、教員の授業力向上を図る。
- ⑪ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を進める。

3 進路指導

- ① データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。
- ② 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等を計画的に実施するとともに、充実を図っていく。
- ③ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路

を担当者へ個別に手渡し、各自の授業改善につなげた。

9/28(水)の授業力向上研修までの期間を相互授業参観期間とし、講義座学系の「指示と説明：先生の説明は分かりやすく、指示に戸惑うこともない」の評価の高い教員の授業を中心に授業参観を実施した。

知識・技能だけでなく、思考力及び記述力・論述力を測る定期考査の作成に各教科で取り組むとともに、定期考査問題の共通化を推進している。5教科の定期考査では、問題の全てまたは一部を共通問題で実施している。教員の相互授業参観(年3回以上)は一部不達成、指名制による授業研究は若手教員が活用した。

【数値実績】

ア 生徒による授業アンケートの肯定的評価の割合

「課題や目標をもち、主体的に取り組んだか」
1年 73.3% [-%]、2年 65.3% [-%]、3年 76.2% [-%]

「学習内容のわかりやすさ、準備・工夫」
1年 77.0% [-%]、2年 67.8% [-%]、3年 71.4% [-%]

「思考・判断・表現力の伸長」
1年 71.7% [-%]、2年 60.5% [-%]、3年 70.9% [-%]

「興味・関心、意欲の喚起」
1年 62.3% [-%]、2年 52.7% [-%]、3年 60.1% [-%]

イ 学校評価の肯定的評価の割合

・「主体的・意欲的な取組」は、生徒 83.7% [73.6%]、保護者 85.7% [-%]、教員 82.7% [-%]
・「個別最適な学び」は、生徒 71.0% [-%]、保護者 52.4% [19.9%] [-%]、教員 73.5% [-%]、来校者 91.7% [-%]

・「協働的な学び」は、生徒 86.4% [-%]、保護者 68.1% [18.9%] [-%]、教員 97.7% [-%]、来校者 97.7% [-%]

・「ICTを活用した教育」は、生徒 94.2% [80.2%]、保護者 92.4% [84.7%]、教員 98.0% [81.8%]、来校者 99.2% [-%]

・「評価基準の明示」は、生徒 86.9% [-%]、保護者 72.8% [17.3%] [77.2%]、教員 93.9% [-%]

ウ 大学入学共通テスト全国平均比較 +9.8p [+8.1p]、
5-7型受験者 104名 [116名]、
得点率80%以上人数 4人 [0人]

エ GTEC の4技能の各学年のスコア [1年 829.4点、2年 856.3点] [1年 817.3点、2年 852.0点]

※1年：ベーシック(1080点満点)、2年：アドバンス(1280点満点)

3 進路指導 【B】

模試分析資料作成及び校内全体での情報共有、組織的な進路指導体制による指導を行っている。

進路希望調査(10月)における国公立大または国公立大と私立大の割合は、1年 87.5%、2年 62.2%、3年 52.3%であった。

【数値実績】

ア 学校評価の肯定的評価の割合

・「第一志望実現の支援」は、生徒 83.7% [-%]、

<p>指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。</p> <p>④ 進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会を捉えて、難関校に挑戦する高い志を抱くように支援する。</p> <p>⑤ 保護者会において、進路情報の提供を行い、保護者の受験に対する意識を高めるとともに、保護者面談を実施（各クラス年1回以上）することにより、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。</p> <p>⑥ 進路指導部、学年による「進路だより」を月1回以上発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。</p> <p>⑦ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト（各学年）、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。また、各教科で年間計画を作成し、負担が偏らないように組織的・計画的に実施する。</p> <p>【学校評価：必要な補習・講習の開講(生徒)80% [77.2%]】 【講習年間人3講座程度】</p> <p>⑧ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>⑨ 安易に現状の学力に見合った進路を選択し、受験科目を減らすことのないよう全員で支援する。</p> <p>【共通テスト5教科7科目受験者150人 [128人]】 【共通テスト総合得点率80%以上、受験者の15%以上 [共通テストの難化により0%]】 【現役国公立大学合格者80名 [59名]】 【現役国公立・難関私立合格者160名 [135名]】</p>	<p>保護者 62.8% [18.5%] [-%]、教員 83.7% [-%]、外来者 90.8% [-%]</p> <p>・「進路情報の提供」は、生徒 90.3% [90.4%]、保護者 76.4% [10.0%] [74.2% [-%]]、教員 93.9% [78.2%]、外来者 90.9% [-%]。</p> <p>・「補習・講習の開講」は、生徒 87.7% [77.2%]、保護者 60.2% [15.7%] [64.0% [17.8%]]、教員 94.6% [74.5%]、外来者 95.5% [-%]。</p> <p>イ 進路希望調査（10月）における国公立大または国公立大と私立大の割合 1年 87.5% [88.1%]、2年 62.2% [65.6%]、3年 52.3% [55.1%]</p> <p>国公立大学出願者数 131名 [147名] 現役国公立大学合格者 52(0)名 [62(3)名] (内大・学校)</p> <p>現役国公立・難関私立進学者 126名 [135名]</p> <p>ウ 大学入学共通テスト出願率 95.8% [99.1%] 5教科7科目受験者 104人 [116人] 総合得点率 80%以上、受験者の 3.8% [0%]</p> <p>エ 長期休業期間中に延べ 225日 [56講座] の補習・講習（夏期講習 37、夏の学校 19 など）を実施</p> <p>オ 自主学習時間（学年+1 時間の確保） 39.6% [28.3%]</p> <p>1年平均 1h24m (1h~ 73.0%、2h~ 37.2%)、 2年平均 1h37m (2h~ 45.1%、3h~ 18.7%)、 3年平均 4h04m (3h~ 79.7%、4h~ 62.8%)</p> <p>部活動(平日の平均時間) 1年 58m、2年 36m、3年 18m</p> <p>スマートフォン利活用(平日の平均時間) 1年 2h49m、2年 1h48m、3年 2h02m</p>
<p>4 生活指導</p> <p>① HR活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気の醸成」「命の教育の推進」に取り組む。</p> <p>② 基本的な生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。また、交通ルールを守らせ、とくに登下校の際のマナー向上を図る。</p> <p>③ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。</p> <p>④ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。</p> <p>【学校評価：適切な生徒指導(生徒)80% [80.2%]】</p>	<p>4 生活指導 【B】</p> <p>いじめアンケートは各学年3回実施した。「いじめ防止に対する組織的な取組」は、生徒は高いが、保護者への周知は課題である。生徒会を中心に「SNS町高ルール」の再検討を行い、Webページにて周知を図った。</p> <p>「体罰・暴言のない指導」の評価は、生徒は非常に高く、保護者も比較的高い。</p> <p>「安全指導・防災教育の適切実施」は、生徒は高いが、保護者への周知は課題である。SNSに関して、教科「情報」における指導及び外部講演会を適切に実施した。</p> <p>遅刻は2・3年生に対する指導の徹底が必要である。</p> <p>生徒面談指導を学期に1回以上実施した。保護者との二者・三者面談の充実が課題である。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 遅刻者数（各クラス1日平均） 1年 0.29人、2年 1.89人、3年 2.16人、全校 1.45人</p> <p>イ 学校評価の肯定的評価の割合</p> <p>・「いじめ防止に対する組織的な取組」は、生徒 88.3% [-%]、保護者 58.4% [37.3%] [-%]、教員 93.8% [-%]</p> <p>・「体罰・暴言のない指導」は、生徒 99.9% [-%]、</p>

	<p>保護者 78.1%《18.1%》[-%《-》]、教員 95.9% [-%] 「安全指導・防災教育の適切実施」は、生徒 90.0% [-%]、保護者 60.2%《32.8%》[-%《-》]、 教員 91.8% [-%]</p>
<p>5 健康づくり等</p> <p>① 登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を把握し、日常的に声掛けを行う。</p> <p>② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。</p> <p>③ スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を7月までに実施する。</p> <p>④ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、年間1回程度、校内研修を実施する。</p> <p>⑤ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。</p> <p>⑥ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、校内美化に努める。</p> <p>避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会など通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。また、原則として1学年の1学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。</p>	<p>5 健康づくり等 【C】</p> <p>新型コロナウイルス対応の関係で、全員面接の終了は7月となった。また、「高校生の意識」調査に基づくSC面接を実施した。不登校傾向のある生徒(年間欠席50日間以上)は7名(1年3名、2年3名、3年1名)。</p> <p>「衛生環境・清掃状況」の評価は、生徒・保護者・来校者いずれも高い。「健康管理指導」の評価も、生徒・保護者ともに高い。「教育相談の環境整備」の評価は、生徒は高いが、保護者への周知が課題である。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校評価の肯定的評価の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衛生環境・清掃状況」は、生徒 88.1% [-%]、保護者 85.9% [-%]、教員 75.0% [-%]、来校者 92.4% [-%] ・「教育相談の環境整備」は、生徒 88.3% [-%]、保護者 63.6%《22.9%》[-%《-》]、教員 87.8% [-%] ・「健康管理指導」は、生徒 90.0% [-%]、保護者 64.4%《26.4%》[-%]、教員 91.8% [-%] <p>イ 体力合計点の平均比較</p> <ul style="list-style-type: none"> 都比男子+1.4p、女子+3.1p [昨年度は未実施] 全国比男子-4.0p、女子-0.9p [昨年度は未実施]
<p>6 特別活動・部活動</p> <p>① 生徒に90年余の歴史の継承者であることを自覚させるとともに、様々な教育活動を通して生徒の自己肯定感を高め、生徒に愛校心と誇りを育てる教育を実践する。</p> <p>【学校評価：学校目標の伝達(生徒)80% [65.1%]</p> <p>【学校評価：歴史と伝統の継承(生徒)80% [83.6%]</p> <p>② 「切替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。</p> <p>【学校評価：学習と特別活動の両立(生徒)80% [72.9%]</p> <p>③ 生徒の主体的活動を支援し、ホームルーム活動・学校行事・委員会活動・部活動等の活性化を図る、また、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、コミュニケーション能力の育成し、生徒に成就感・達成感を享受させる。</p> <p>【部活加入率 90%以上】</p> <p>④ 「文化部新設置推進校」として、バトントワリング部門が指定を受け、部活動の推進を図るための校内体制の整備を行い、年間活動計画に沿った活動を行う。</p> <p>国際理解教育として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留</p>	<p>6 特別活動・部活動 【A】</p> <p>コロナ禍にあって、昨年度まで十分に学校行事を実施することができなかったが、今年度は、合唱祭・町高祭・体育祭が全体で実施でき、2・3年生の修学旅行等の宿泊行事も実施できた。</p> <p>「学習と特活の両立(文武両道の実践)」の評価は、生徒は69.9%に留まったが、保護者は高い。</p> <p>「学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成」の評価は、生徒・保護者ともに非常に高い。</p> <p>「部活動満足度[充実度]」の評価は、生徒は高く、保護者も比較的高い。</p> <p>東京都立大学との高大連携事業として、探究講座(1学年)講演「セレンディピティ ～研究者を目指して～」、東京都立大学訪問事業(1学年)などを実施した。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校評価の肯定的評価の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習と特活の両立(文武両道の実践)」は、生徒 69.9% [72.9%]、保護者 86.8% [-%]、教員 77.6% [74.6%] ・「学校行事を通じた個性豊かな人間性の育成」は、生徒 89.3% [-%]、保護者 89.5% [-%]、教員 95.9% [-%] ・「部活動満足度[充実度]」は、生徒 80.8% [-%]、保護者 73.5%《8.1%》[72.1%《-》]、教員 67.3% [-%] <p>イ 部活動加入率 87.0% [87.0%]</p>

<p>学派遣、海外の学校との交流を推進する。また、各種交流活動や海外語学研修等において互いの文化について交流ができる生徒を育成する。</p>	
<p>7 募集・広報活動</p> <p>① 中学生・保護者に本校の教育活動の周知のため、学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等を積極的に実施し、募集・広報活動に努める。全教職員体制で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数を増やし、応募倍率の向上を図る。 【外部の説明会、中学校・塾訪問等、年間3回以上】 【学校説明会参加人数1300名〔917名〕】</p> <p>② 中学校訪問・塾訪問のマニュアルを作成し、中学校や地域に対する募集・広報活動の改善を図る。また、訪問の際には、中学生や保護者のニーズ及び本校に対する評価に関する情報を収集し、募集対策や教育活動の改善に反映させる。 【推薦に基づく選抜2.7倍〔2.16倍〕】 【学力検査に基づく選抜1.4倍〔1.29倍〕】</p> <p>③ Webページにより適時適切に発信するとともに、広報誌の発行回数・部数を増やし、配布先を広げる。入試倍率の向上に努める。 【Webページ更新240回以上〔223回〕】</p> <p>④ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。 【年1人1回以上】</p> <p>⑤ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 【70名〔66名〕】</p> <p>⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 【4000名〔一昨年度3681名〕】</p> <p>⑧ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。</p>	<p>7 募集・広報活動 【B】</p> <p>Webページの更新160回〔133回〕に止まった。感染症対策のため、集合による開催は人数制限を行った。学校見学会・学校説明会参加者2473人〔1499人〕、授業公開は3日実施できた。また、対面による説明の代替として動画を配信した。個別のオンライン面接や個別相談にも取り組んだ。 12月の学校説明会参加者を対象に来校者アンケート(132家庭)を実施した。学校説明会への参加満足度は非常に高い。 【数値実績】 ア 来校者アンケートの肯定的評価の割合 「学校説明会・学校見学会に参加して満足している」 98.4〔-%〕</p>